

令和8年度全国地域リーダー養成塾修了者研修会 開催案内

1 目 的 修了者対象の事後研修を実施することにより、自己啓発や情報交換を図り、地域リーダーとしての資質向上を支援する。

2 日 時 令和8年10月1日（木） 13：30～13：50 受付
14：00～17：30 分科会
17：30～19：30 交流会
令和8年10月2日（金） 9：30～11：30 特別講義

3 場 所 アルカディア市ヶ谷（私学会館）
〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
TEL（03）3261-9921

4 対 象 リーダー塾修了生、第38期塾生

5 分科会

- （1）分科会数 7分科会
- （2）人 数 各分科会10～20名程度
※希望者が多い場合は調整いたします。
- （3）テーマ及び講師 別紙のとおり

6 特別講義

- （1）講師 尼崎市役所 江上 昇 氏、桂山 智哉 氏
- （2）プロフィール

元漫才師の尼崎市職員で結成。難しい行政テーマをお笑いでわかりやすく伝える等の活動を通じて、まちの魅力の発信やPRに努めている。

「公務員の価値観を変える」「公務員のアクションを変える」「公務員のイメージを変える」をミッションに地域や学校等で出前講座を開催するほか、市主催事業にも登場し、障害のある方との漫才や「シチズンシップ」「施政方針」等も題材にする。これまで約70公演、4,000人超を動員。

- （3）テーマ 調整中



7 申込方法 申込みフォーム・FAX等で事務局へ申し込みをしてください。
申込みフォームURL：<https://forms.gle/9bevbNB3BUUpGpixDA>

8 交流会 参加者負担3,000円
※参加希望者には連絡文書送付(8月上旬予定)の際に、振込方法を通知いたします。

8 宿 泊 宿泊施設は各自で手配をお願いいたします。

別紙 分科会のテーマ及び講師（敬称略）

分科会	テ　　ー　　マ　　及　　び　　講　　師	
第1 分科会	テーマ 講　師 パネリスト メッセージ	これからの移住定住を考える 西村　幸夫（塾長、東京大学名誉教授、國學院大學名誉教授） 神谷　未生（一般社団法人　おらが大槌夢広場　代表理事） 移住定住は各地の地域づくりにおいて重要なテーマとなってきました。今年は岩手県大槌町から一般社団法人おらが大槌夢広場の代表理事である神谷未生さんをお招きして、移住定住へ向けたリアルな活動に関して、参加者の皆さんと議論したいと思います。神谷さんは大槌町移住定住事務局、そして大槌町地域おこし協力隊事務局としても活動しておられます。大槌町は東日本大震災で甚大な被害を被っただけでなく、最近も山林火災の被害があったところです。神谷さんご自身が移住者でもあり、この問題を当事者としても語っていただけたらと思います。そこから移住者とともにある地域の未来を展望したいと思います。
第2 分科会	テーマ 講　師 パネリスト メッセージ	住民投票でまちは変わるか？ ～日本とドイツの事例から考える～ 卯月　盛夫（元主任講師、早稲田大学名誉教授、早稲田大学参加のデザイン研究所顧問） 福地　健治（早稲田大学参加のデザイン研究所 招聘研究員、博士（社会科学）） ドイツのミュンヘン市では、1か月に2～3件程度の住民投票が実施され、その結果を受けて市は計画を変更することがあります。日本ではまだ実施事例は少ないですが、まちを変えるような重要な住民投票もあります。分科会では、日本とドイツの住民投票の事例を取り上げながら、今後住民投票はどのような役割を果たしていくべきかを考えます。
第3 分科会	テーマ 講　師 パネリスト メッセージ	ワーケーションと地域活性化 田村　秀　（主任講師、長野県立大学教授） 田村　英彦（株式会社ふろしきや代表取締役） 人口減少が本格化する中で、地域活性化のためには地域に様々な人が関わる必要不可欠となっています。ワーケーションもその一つの手法であり、全国各地で多様な取り組みが進められている。本分科会では、長野県千曲市の株式会社ふろしきやの代表取締役である田村英彦氏をお招きして、ワーケーションをはじめとする様々な取り組みを紹介していただくとともに、地域活性化について参加者の皆さんと語り合ってもらいます。

分科会	テ ー マ 及 び 講 師
第 4 分科会	テ ー マ 講 師 パ ー ト メ ッ セ ー ジ 自治体と環境政策 東久留米市・芦別市での研究者連携による実践（仮） 土山 希美枝（主任講師、法政大学教授） 重藤 さわ子（事業構想大学院大学 教授/RISES） 酷暑、集中豪雨・豪雪の背景として指摘される気候変動が指摘されて久しいですが、自治体での脱炭素政策は、日本の自治体と地域社会での動きは、その必要性やポテンシャルの高まりに反して大きくなっていません。そのなかで、研究者と自治体が実践に取り組むことをつうじて見えたこと、考えたことを共有します。 ※RISES（共生エネルギー社会実装研究所）： 脱炭素政策の実践を進めている研究者グループ https://www.erises.org/ ※参加者どうしで意見交換する時間があります。
第 5 分科会	テ ー マ 講 師 パ ー ト メ ッ セ ー ジ 地元が集まる・地元を想う：地域に育つ子どもたちの居場所と他出した女性たちの望郷をめぐる現在とこれから 松井 望（主任講師、東京都立大学教授） 榊原 勇介（第 37 期修了生、高浜市役所職員） 堀 美紗子（第 37 期修了生、地域活性化センター職員） 「地域づくりは人づくり」、ご存知、地域活性化センターのモットーです。そして、人が集う場所づくりもまた大切です。とはいえ、いずれも長い時間をかけて手入れをしつづければならないことも事実です。今回は、昨年度の地域リーダー養成塾で、子ども、若者、女性のそれぞれの視点から居場所や地元回帰を研究されたお二人からご報告をいただき、みなさんと子ども、若者、女性の居場所づくりあり方を一緒に考えていきたいと思います。
第 6 分科会	テ ー マ 講 師 パ ー ト メ ッ セ ー ジ 地域主体を巻き込み、よりよいプラットフォームをつくる（仮） 野原 卓（主任講師、横浜国立大学大学院教授） 尾崎 信（ネイバーズ株式会社 代表取締役） よりよい地域づくりを推進するためには、地域に関わる様々なステイクホルダーが、それぞれの立場でそれぞれの役割を全うすることが大切です。そのためには、地域で活躍する様々な人たちに目を向け、そこに関わり、巻き込みながら進めてゆく必要があります。今回は、地域に関わり・巻き込みながらよりよい地域づくり・プラットフォームづくりを推進してゆく方法について（甲府市や気仙沼市の取り組みなどを通じて）学び、議論します。
第 7 分科会	テ ー マ 講 師 パ ー ト メ ッ セ ー ジ 異業種の力で未来を拓くりジェネラティブな地域づくりの可能性 図司 直也（主任講師、法政大学教授） 宮崎 智明（有限会社春華堂 地域の力創造室次長代行） 静岡・浜松を拠点に「うなぎパイ」を製造・販売する春華堂さんが、遠州・和栗の魅力を世界へ届けようと新たなプロジェクトを立ち上げました。合言葉は「こんにちわぐり」。「一次産業から日本を元気にする」ことを掲げて、2025年には「一般社団法人和栗協議会」を発足させ、地域の農業・文化・企業活動を“循環する関係性”として再構築すべく、多方面のステイクホルダーと攻めの活動を展開中。事務局メンバーの宮崎智明さんをお迎えして、和栗協議会の取り組みを素材に、異業種連携の可能性と地場産業が目指す未来を考えます。